

平成 28 年 10 月 20 日 00296 号

編集者:佐藤 寿 春

北見市幸町 8 丁目 4-4(佐藤整骨院内)

NPO 法人北見市武道振興協会事務局発行

直通:090-5986-0839

代表:0157-22-2212 Fax:0157-23-0581

satou.toshiharu@navy.plala.or.jp

北見武道通信

URL <http://www.kitamibudokan.org/>

ニュースレター【事務局情報】 シリーズ北見市武道館トレーニング器具と安全使用は今週もお休みします！



北見居合道連盟が北海道居合道大会で活躍！9月11日(日)千歳市総合武道館で第46回北海道居合道大会が開催されました。北見居合道連盟から数年ぶりに団体1チームが編成されて参加しました。他の選手に劣らない健闘ぶりを発揮し、次回の展望が開けました。また、大会に合わせて段位審査会が行われて八名の剣士(初段5名、二段2名、三段1名)が合格しました。三浦清富北見居合道連盟会長は「代を担う拳士の人たちが学んだことを後世に古武道の文化を伝承されていくことを期待します。」と昇段者の誕生を喜んでいました。

北見居合道連盟創立60周年記念の演武会が開催されました！



10月9日北見市武道館(道場3)に於いて、北見居合道連盟創立60周年記念演武会が開催されました。デンマークやエジプトなどからも参加、国際色豊かな60周年記念演武会になりました。夜には祝賀会も行われました。

北見市教育委員会主催「柔道の安全指導」講習会が開催されました！



9月27日(火)北見市武道館で、「柔道の安全指導」講習会が開催されました。北見市15校の中学校で、武道必修体育授業に柔道を選択した中学校は、東陵・光西・東相内・温根湯・高栄の5校で、北見市教育委員会が中学校体育授業において安全な体育柔道授業が行われるよう毎年開催されています。平成24年より全国中学校武道必修が行われていますが、北見市での柔道事故は起きておらず、今後も多くの中学生が、安心して柔道の楽しさを学べるよう安全指導者講習会は続けられる予定となっています。

連載「武道宝鑑」第6弾 剣道の奥義を語る 高野佐三郎 大日本武徳会剣道範士

高野 『残心』とは、心を残さないようにして残すこと、初めから心を残すつもりで残すのは『残心』でない、分解していうと、このコップの中に一滴の水を残すには、傾けて少しづつ捨てれば少しも残りなく捨ててしまうが、一度にぱっと捨てると一滴の水が残る、残さむと欲すれば残らない、思い切って捨てれば残る、残そうとして行った残心は残心ではない、打つべきところを十分打って初めて残るのが真の『残心』です。打ってもいくらでもいくらでも後に残って居る、『門前の瓦』という教えがあるが、案内を乞うに瓦で門を叩いてその瓦を捨ててしまう、そうして応えのない時は又新しく取って叩くというのがそれです。問 最後に『気位』について、先生が御経験になったことから具体的に一つお話し下さい。高野 ああいうことはいうにいわれないものですよ。問 先生の御感心なさいました剣道大家の気位の特に立派であった方は…。高野 前申し上げたように、私共崇拜して居るのは宮本武蔵、伊藤一刀斎、明治になってからは松崎浪四郎先生などですね、上泉伊勢守とかいろいろな方がありましようけれども、どういう風だったかよく分からない。問 勝敗に捕られることですが、稽古でも勝ってやろうという気持ちで行く方がいいか、勝敗は考えずに…つづく